

教授

溝部 昌子

■ 学歴

1. 2002年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 博士課程単位取得退学

■ 学位

1. 1999年 修士（保健学）
2. 2003年 博士（保健学）

■ 研究分野

1. 臨床看護学 Clinical Nursing
2. 高齢者看護学 Geriatric Nursing
3. 血管看護 Vascular Nursing
4. 異文化看護 Transcultural Nursing, 文化能力 Cultural Competency
5. 看護管理学 Nursing Administration
6. ソーシャリー・エンゲージド・アート 社会的処方 Socially Engaged Art

■ 研究キーワード

1. 血管看護、血管障害患者の看護方法、高濃度炭酸水を用いた足浴
2. 看護エコー、深部静脈血栓症予防、排泄ケアと看護エコー
3. 文化看護、異なる文化背景対象への看護、文化能力開発プログラム
4. タクティールケア、触れる看護

■ 研究課題

1. 看護観察へのハンディエコーの活用の成果とスキル修得に関する研究
2. 血管看護学教育の体系化に関する研究
3. グラフィックレコーディングの学修活動やヘルスコミュニケーションに及ぼす影響に関する研究
4. タクティールケアの手技の言語化と修得方法に関する研究
5. 文化背景が異なる対象の看護、看護師の文化能力の醸成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 老年看護学実習（通年）（看護学科）必修
2. 看護総合演習（通年）（看護学科）必修
3. 看護総合実習（通年）（看護学科）必修
4. 老年看護学概論（前期）（看護学科）必修
5. 老年看護学演習（前期）（看護学科）必修
6. 看護研究の基礎（前期）（看護学科）必修

7. 老年看護方法論（後期）（看護学科）必修
8. 国際看護学（後期）（看護学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【老年看護学概論】2年生前期
	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学の基礎知識、加齢性の心身変化を第1～4回で集中的に扱い、2回の小テストを実施することで、早い段階で知識に触れるような計画とした。 ・従来行っていた、グラフィックレコーディングや KYT（危険予知トレーニング）を用いた、高齢者の暮らしの安全についての講義に、高齢者体験装具装着下での簡易体力測定や屋外歩行を加え、より体験的に学べるように工夫した。 ・後半は、テレビ番組、書籍、雑誌等メディアで紹介されている高齢者を紹介し、多様な高齢者像やヘルシー・エイジングやプロダクティブ・エイジングを支える社会の仕組みや個人の取り組みについて触れる機会を多くし、創造的発展的に老年看護の課題を検討するようにした
2.	授業科目名【老年看護方法論】2年生後期
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの健康の11パターンの枠組みに沿って、高齢者看護に必要な観察、アセスメント方法、看護ケア技術を教授した。 ・看護師国家試験や老年看護学実習の内容を鑑みても、老年看護学教育構成内容が過不足ないものとなつた。 ・配布資料をパワーポイント A41ページに2枚印刷、カラー両面とした。前年度は、配布資料が多い、内容が難しかったなどの意見が書かれていたが、今年度は、その配布資料を臨地実習に持参して活用している学生も多く、有益だったと考えられる。 ・8回の課題提出と定期試験で評価し、学修の積み重ねが必要な計画となっていた。課題提出前に一旦解説し、追加記載をさせたうえで課題の提出を求め、最終的に個々に簡単にフィードバックを返却した。定期試験は出題範囲を事前予告し、ほぼ完ぺきな回答が多く、課題や試験全てにおいて組みがよかつた。
3.	授業科目名【老年看護学演習】3年生前期
	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程のアセスメントでは、健康パターンごとの講義で、記載すべき要点を示し、学生はそれに基づいて自身で課題を完成し、翌週提出した。グループごとにボックスを用意し、グループでまとめて提出・返却した。 ・提出時には、評価表にセルフチェックし、教員からは4段階評価を付し返却した。 ・看護計画EPはグラフィックレコーディングで制作した。 ・未提出や提出遅れはなく、講義であらかじめ要点を示していたことから、課題に取り組む時間は従来に比べて短縮され、負担は軽減されたと考える。学生によって取り組みや成果に差があった。看護計画のEPが具体的に記載されていた。
4.	授業科目名【看護研究の基礎】3年生前期
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策上、特に制限のない状態での開講であり、従来通り、質問紙調査を前提とした研究計画の策定、調査の実施、研究成果報告会を実施した。 ・授業時間内で、質的データ分析、量的データ分析と図表の作成、調査の実施、エクセルデータの集計、研究に必要な文書の作成を行うことで、グループワークに伴う負担や学生間トラブルや少なか

	<p>ったと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究のプロセスで必要となる作業について、情報検索、研究計画書の作成、研究説明文書の作成などを、実践的に学ぶことができ、研究についての基礎知識の習得につながったと考える。
5.	<p>授業科目名【国際看護学】2年生後期・選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の講義をオンデマンドで取り入れ、英国における看護師資格取得や勤務、ボランティアの仕組みや実際、国際協力の実際にについて講義を受けた。看護では技術や知識だけでなく、制度や価値観によりことなるものであること、様々なキャリアの発展があることなど見聞を広めることができた。 ・国際看護の基礎知識としての講義のほかに、「映画バベル」を教材として、暮らしている場所による人々の文化的背景や価値観の違いなどについてディスカッションし、検討することができた。 ・外部講師を1コマ増やし、オンデマンドとし、調べ学修の課題を減らし、選択科目としての負担は軽減しつつ、文化的対応や国際的な課題に対する見聞は広がったと考える。
6.	<p>授業科目名【看護総合演習】4年生通年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍「役立つ！使える！看護のエコー」を各自購入し、前腕皮静脈の観察についてトレーニングを継続した。 ・看護や看護教育におけるエコーの活用について、各自文献検索を行い、精読会を複数回行った。 ・3年生老年看護学演習の技術において、前腕皮静脈マッピングの演習補助を行った。
7.	<p>授業科目名【看護総合実習】4年生通年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A病院において、前腕皮静脈マッピングとタクティールケアを実践し、その看護における意義を文献的考察を加えて整理し記述した。
8.	<p>授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】3年生後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病院A,B,C,D病院では、それぞれ特徴的な看護を学ぶ機会を得ている。 ・学生2~3名一組が、患者一人を担当し、情報収集、コミュニケーション、アセスメント、看護の実践、アクティビティケア、文献的考察、まとめの発表を行った。 ・グループでの担当は、学生のチームで働く力を育むことにつながり、また、複雑な病態や背景を有する患者の看護における問題解決においても有用で合理的な方法であると考える。 ・「豊かな生を支える看護」においては、患者の強みを生かしたアクティビティーや、タクティールケア、生活や療養の指導など、多彩な計画を実施することにつながった。このために実習指導者、病棟管理者、多職種の方々にはご協力いただき、学生の実習を支援していただいた。 ・欠員があるため、非常勤実習助手として週2~3日の実習指導があるが、プラチナナース登用の意義として、2人の確保を大学へは希望している。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年より現在に至る	日本看護科学学会	
2.	2003年より現在に至る	日本看護管理学会	
3.	2011年より現在に至る	日本看護評価学会	2022年より編集委員会委員長
4.	2014年より現在に至る	日本血管外科学会	2014年よりチーム医療推進委員会委員
5.	2014年より現在に至る	日本循環器看護学会	

6.	2016年より現在に至る	日本看護理工学会	
7.	2015年より現在に至る	日本血管看護研究会	2015年より代表世話人 2015年より毎年プログラム委員 2024年より血管看護研修コース運営委員会副委員長、運営事務局
8.	2016年より現在に至る	日本リンパ浮腫治療学会	2016年より評議員
9.	2018年より現在に至る	日本老年看護学会	
10.	2019年より現在に至る	国際臨床医学会	
11.	2022年より現在に至る	日本静脈学会	
12.	2022年より現在に至る	日本フットケア・足病学会	
13.	2023年より現在に至る	Society for Vascular Nursing	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概要
(著書)				
1. なし				
(学術論文)				
1. 2025年3月	〈査読あり〉 総説 看護エコーの 意義と活用へ の課題に關す る文献的研究	共著	西南女学院大 学紀要 VoL29	看護エコーの有効性は、①排泄ケア (尿・便)、②褥瘡ケア、③下大静脈径 計測による体液管理、④末梢静脈穿刺 で示された。看護エコーの適応対象と して、尿意便意の把握が困難な患者の 膀胱・直腸内貯留物、褥瘡深達度や周 囲皮膚構造、心不全・慢性腎不全患者の うつ血、末梢静脈穿刺部位や留置の評 価があり、看護師向けのエコー教育プ ログラムには、エコー観察の技術に加 えて、焦点化する病態に関する臨床推 論と、観察結果から導かれる看護ケア シナリオの知識を含める必要があるこ と、病態や臨床指標といった成果だけ でなく、看護学的に評価し、実証してく ることが課題であることを示した。 A4版総頁数:101頁、p23-36 <u>溝部昌子、吉原悦子、金子由里</u>
(翻訳)				

1.	なし				
(学会発表)					
1.	2025年3月	〈査読あり〉 看護エコーの 活用に関する 文献的研究	共著	第17回日本静 脈学会瀬戸内 西日本支部総 会 (長崎)	看護エコーは、POCUSとして、焦点化 された病態に対する所見の有無を觀察し、その看護方法を選定、あるいは成果 を評価しながら看護ケアを提供するも ので、実践例の文献検討をもとに、看護 エコーが用いられた看護場面を示し た。 <u>溝部昌子、金子由里</u>
(その他)					
1.	2024年5月	血管看護研修 コース運営委 員会 教材作成の手 引き1.1	共著	日本血管看護 研究会	血管看護研修コース運営委員会が運営 する研修の教材作成手引きを示した <u>血管看護研修コース運営委員会</u>
2.	2024年12 月	編集後記	単著	日本看護評価 学会誌 第14巻第1号	<u>溝部昌子</u>

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者() 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
1.	看護師によるPOCUS活用に する研究-DVT予防対策と安全 なケアへの効果-」	文部科学省 科学研究費補助金 基盤(B)	○溝部昌子、吉原悦子、(宮 田哲郎、重松邦広、岩倉真 由美)	1040,000円
2.	「病院と看護の国際化ガイドラ インの普及と活用-文化多様性 の包摂と医療格差の解消-」	文部科学省科 学研究費補助金 基盤(C)	(○野地有子、)溝部昌子	40,000円

(2) 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
1.	なし			

■ 社会における活動

任 期	団体・委員会等の名称	役 職 名 等

	期 間 等	(内 容)	
1.	2023 年～	北九州市国民健康保険運営協議会	公益代表委員
2.	2018 年～	西南女学院看護キャリア支援センター 認定看護管理者コースセカンドレベル	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1. 2018 年より現在に至る	西南女学院看護キャリア支援センター 認定看護管理者研修コース運営委員会	運営委員
2. 2018 年より現在に至る	国際交流委員会	委員
3. 2023 年より現在に至る	看護学科実習コーディネーター ・実習記録等機密文書の保管と廃棄 ・実習用品の交換や配布 ・実習欠席情報の集約 ・代替実習の報告	責任者
4. 2023 年より現在に至る	看護学科 3 年生アドバイザー	責任者
5. 2025 年 1 月より現在に至る	看護学教育課程コアカリキュラム改訂 対応	責任者